

第三号議案

2022年度 活動計画（案）

今年度のナルク本部の方針は「体制の強化」「経営基盤の確立」「地域との連携強化と社会貢献活動」の3点が示されました。

「天の川クラブ」全会員が拠点活性化の一翼を担うという意識で進みたいと考えます。伝統ある組織を発展させ次の世代にバトンを渡す。これが私たちの責務だと思います。

長いコロナ禍による活動の停滞から「天の川クラブ」の元気を取り戻し底力を発揮したい。本年度は次の5点に集中的に取り組みます。

（1）全世代対応の会員組織へ

- ①情報発信力を強化し、全世代対応型の会員組織への展開を図ります。特にホームページを有力なツールと位置付け、情報源である会報を一層魅力的な内容にし、若い世代にも「自分も仲間に加わりたい」と感じさせるよう努めます。
- ②会員が友人・知人へ入会勧誘を推進するツールとして「紹介ハンドブック」の内容を更新し、幅広い活用により会員増強を促進します。
- ③イベント・研修会・同好会に市民の参加を呼びかけ入会促進に努めます。

（2）事業活動推進で安定的拠点運営

- ①「生涯学習情報プラザ」（受託事業）を本年も継続受託していきます。
- ②「生活支援員養成研修」（受託事業）も継続実施し、受講者の支援員登録を進め「ナルクすこやか」の円滑な活動に寄与します。
- ③「生活援助訪問事業ナルクすこやか」は開設6年目となり、一層の充実運営に努めます。
- ④新規受託事業取得に向けて積極的に取り組みます。

（3）会員活動の活性化 「楽しいナルク」「安心のナルク」「感動のナルク」

- ①地区会を活動の原点として参加率の向上を目指します。そのため地区世話人交流会を開催し、情報交換による活動の活性化を図ります。
また代表・部門担当が会員とのコミュニケーションを密にしていきます。
- ②助け合い活動（会員相互扶助活動）は、利用と提供の双方向の活動を円滑に推進するよう努め、併せて「ひとり暮らし支援」も継続し、会員が安心して暮らせる体制づくりを目指します。
- ③コロナ収束を見計らって会員対象の「意向調査」を実施。心の通うキメ細かな活動・会員にフィットする活動を目指します。
- ④「ふれあいの日」の継続実施で新会員の活動参加を積極的に進めます。

（4）地域社会への貢献活動

「ナルクデー」を環境美化活動の重点項目として実施。コロナ禍で中止が続いた「クリーン&ウォーク」も積極的に取り組みます。参加者全員がネーム入りベストを着用し、市民へのイメージアップとPRを図ります。

（5）リモートへの取り組み

会員相互や拠点間連携のためにオンラインによる運用を進めます。

1. 時間預託活動

近藤秀子・角山正男・一宮順世

会員相互扶助活動及び福祉施設活動は、コロナの感染状況を的確に判断し臨機応変に活動を進め、利用の要望に応えるよう取り組みます。

(1) 会員相互扶助活動

- ①家事・介助支援は、時間預託の会員相互の助け合いを柱に活動をしています。
利用者・提供者の双方が高齢という状況ですが、提供者の負担軽減を踏まえた上で求められている支援活動を目指します。
ひとり暮らしの会員の情報収集を図り、困りごとの解決につなげます。
また会員の提供離れ対応の方策にも取り組みます。
- ②庭・植木の手入れは、利用者の要望に適切に対応します。
高所・大木等の作業環境や松の剪定等提供出来ない場合は、事前に利用者と調整します。
作業軽減と危険回避のための器具を購入します。
- ③ハウスヘルパーは、「事務所の包丁研ぎ」に加え、利用者宅での提供要望に対応します。
- ④送迎は、感染予防対策を十分にとって活動を実施します。
新規の送迎活動提供者の募集を実施します。
- ⑤パソコン指導は、パソコンサポート時に併せてスマホサポートの要望があれば適宜対応します。
Zoom 活用の支援については、コロナ感染状況が落ち着けば、希望者に勉強会を開催します。

(2) 福祉施設活動

今年度も地域社会への貢献と会員の生きがいにつながるような活動を目指します。
「サンセール香里園」「エイジフリー・ライフ星が丘」「デイサービスえみふる」への提供活動に積極的に参加して頂けるよう努め、新しい提供先を開拓するとともに新規提供者の掘り起こしをします。

2. 奉仕活動

辻 洋子・一宮順世

奉仕活動は、ボランティアの基本であり地域や社会のために役立つ活動であると認識しております。私たちはこの活動に熱意を持って自発的に取り組み生きがいにつながっていきたいと思います。

(1) 福祉施設支援活動

施設利用者との交流を通して、地域社会への貢献と会員の生きがいとなる活動を目指します。また同好会（オー・ジーンズ、マジック、水切り絵、絵手紙等）の協力を得て更なる活動に取り組みます。

(2) 子育て支援活動

子育て施設関連は、「ファミリーポート」「すこやか広場きょうぶん」「広場さぶり」など、乳幼児の親子支援活動を進めます。子ども達とのふれあいを通じ、

会員自身の生きがいにも繋げていきます。「子ども安全見守り隊」は、子どもの安全確保のため使命感を持って見守り活動を継続します。

(3) 環境美化活動

本年度も「ナルクデー」をはじめとして地域の環境美化活動に取り組みます。活動時には、ネーム入りベストを着用しナルクのPRにも努めます。

また恒例の「天の川クリーン&ウォーク」は10月末に実施予定で、50名以上の参加を目指します。

(4) その他外部活動

ひらかた市民活動支援センターや社協開催のイベントに積極的に参加します。

「青色防犯パトロール」は、活動を開始して9年目となります。重要な地域貢献活動として定着しています。本年度は登録車14台で枚方市内全域を巡回し地域防犯に寄与します。新規活動登録者も募集していきます。

「ハンドマッサージ」は、会員向け講習会で技術の向上を図ります。

3. 事業活動

辻 洋子・佐野友保・近藤秀子・和田亮吉

本年度も枚方市から次の事業の受託と認可を受け運営していきます。

(1) 事業A：対応可能な新規事業には積極的に取り組みます。

(2) 事業B：生涯学習情報プラザ受託事業

運営体制を見直し、新しい体制で行政・市民に対し効率的な運営と魅力ある内容を提供できるように推進します。

①体験ルーム（1階）：市民からの要望を考慮したテキストの改訂を引き続き推進。また、特別講座と子供向けのプログラミング講座、シニア向けの新たな講座の新設を企画し参加者の増加を図ります。

②情報ルーム（2階）：IT活用でさらにスムーズな運営管理とマニュアルの改訂を進め、スタッフの世代交代に備えます。

(3) 事業C：枚方市生活支援員養成研修受託事業

枚方市生活支援員養成研修を6月と11月の2回実施し「ナルクすこやか」への登録を勧めて支援員の増員を図ります。受講者人数減少のこの時期をコミュニケーションが十分にとれる好機と前向きにとらえて、ナルクらしい内容の充実した研修を目指します。

(4) 事業D：生活援助訪問事業（ナルク「すこやか」）

事業運営6年目を迎え、要支援者への支援体制が整ってきたことにより、今後は、利用者60名を目指して運営していきます。そのためには新規支援員の獲得が必須であるため、生活支援員養成研修の受講者に登録を勧めて行きます。一方、コロナウイルス感染予防にも努め、支援活動が滞ることが無いよう取り組んでいきます。

4. 同好会活動

向井範雄

同好会は誰もが気軽に参加できる活動であり、現会員の参加はもとより退会者を食い止め新会員の確保のための一役を担い「楽しいナルク」の実現のため、ふれあいルームの活用、新規同好会の発足に工夫を凝らし同好会が身近な存在に感じられるよう努めます。

参加目標を2,000名とします。

コロナ禍は先行き不安ですが、地域社会への奉仕活動にも同好会の特長を活かし積極的に参加できるよう支援します。

5. 会員活動促進

向井範雄

会員で良かったと思えるよう、会員相互の連携と会員個々が活動を通じて生きがいと明日への活力、喜びを得られるよう各活動に取り組めます。

(1) 地区会

①開催時期・場所の設定に難しい面はあるが、コロナの収束時期や感染状況等タイミングを見て「楽しい集い」として年2回以上の開催を目標に努めます。
又、代表、部門担当が参加し地区会の活性化と共にナルク活動の理解と活動への参加を促進します。

②マンネリ化しつつある地区会の内容について適宜地区間にまたがる情報交換やノウハウが共有できる「世話人交流会」及び「合同地区会」の開催を働きかけます。

(2) 会員研修

会員研修はボランティア活動に必要な心得と知識を高め、会員同志の交流を持ち、ボランティア活動に生きがいを見出す大切な研修です。

枚方拠点の会員のみならず、北河内エリアの近隣拠点や広く一般市民も参加してもらえるように工夫し、次の研修を開催いたします。

①コーディネーター養成講座（定員30名）

②健康講座（定員50名）

③会員によるコンサート（定員80名）

(3) イベント

会員の一体感と絆を深める有意義で楽しい次のイベントを実施します。

①定時総会：6月2日（木）・「枚方市総合文化芸術センター」

②秋のイベント：10月12日（水）・「星の里いわふね」

イベントを通じて会員の交流と親睦を深めます。

③秋のバスツアー：11月予定

(4) 活動区分別交流会

同じ活動に取り組む会員が活動に際しての課題やその解決策について、情報交換や連携を深めて共有化を図り、一体感ある活動が推進できるよう年2回程度の交流会開催を働きかけます。

開催に際しては、開催日・場所・規模等参加しやすい環境づくりと共に、新しい活動者の参加を推進し、各活動の活性化に繋げていきます。またコーディネーター会や奉仕活動担当者会議との連携を密にします。

6. 事務局活動

岡本年昭

- ①「天の川クラブ」の窓口として、活動状況の現状や活動計画、全体としての課題等常に把握しておくことが求められ、運営委員会やその他必要な情報を共有化し、一体感ある窓口としての信頼に繋げるよう努めます。
- ②会員管理システム N1 から N2 への移行にともない活動の区分コードが変更になります。
- ③事務局の担当する実務全般について、担当者個々が複数実務に対応できるよう引き続き意識づけと実践を図ります。また事務局スタッフの高齢化等で要員が減少しており、いろいろな機会に補充を行っていきます。
- ④長年蓄積された資料、ファイルの見直しと整備を行い、分別と廃棄により書類管理の簡素化に努めます。
- ⑤今年度も「ふれあいルーム」ギャラリーコーナーへの作品展示を継続します。今までに展示された会員も含め、いろいろな趣味をお持ちの会員、グループなどの新しい作品展示を広くお待ちしております。

7. 広報渉外

向井範雄

- ①会報「天の川」は、広報紙としてタイムリーな内容、そして常に会員から親しまれ身近に感じられる情報の発信源を目指します。
- ②毎月、ナルク会報と会報「天の川」を公共施設に配布、ひらかた市民活動支援センター発行の「ひらせんナビ」にナルク記事を掲載してPRに努めていきます。
- ③ホームページは1月より大幅にリニューアルしました。今後も見やすく、タイムリーな更新、役立つ情報の掲載などより充実した内容を目指して取り組んでいきます。
- ④行政及び関係団体との連携を強化します。